

- 令和3年度実施した教室を通してヒアリングしたこと、気づいたことを以下にまとめた

■ 実際に準備・開催しての気づき

- ✓ 主催側ではなく会場へ直接連絡してしまう方、当日飛び込み参加で来る方がいるので通知の時点で目立つように注意書きをすべきだった。
- ✓ 参加者は手話・要約筆記を見つつ、講師をみつつ、前の資料を見るという3点同時で把握できるようにしなければならないため、この3点はなるべく近づけて参加者の負担を下げる。
- ✓ 耳が聞こえない人が大半なため、講師が次へ進める際に手元に気を取られて気が付かないことが多い。サポーターが教えてあげる必要がある。
- ✓ 前記の場合等、1名の参加者に関わる時間が長いため、通常のスマートフォン教室・相談会よりサポーターの数は多めのほうが良い。
- ✓ 要約筆記者向けのヒアリンググループ（磁気グループ）の状態は参加者でないとわからないため、冒頭の挨拶等のタイミングで確認しておく。

■ 講師・サポーター・通訳者からの気づき

- ✓ 最初にスタッフの全体の紹介があったほうが良い。突然横からサポートの人がくると、サポートの人と認識できていない場合驚いてしまう。
- ✓ 講師の方と事前調整できてよかった。ゆっくり話してもらえて通訳をやりやすかった。
- ✓ 通常の教室よりゆっくりになるので、コンテンツが多すぎると時間オーバーしてしまうかも。